佳作

# 私を揺り動かした愛の言葉

岩手県北上市立飯豊中学校
三年　大川綸己

〝Go home and love your family.〟

これは、一九七九年に、マザー・テレサがノーベル平和賞を受賞したときに述べた言葉です。

私は今年、初めて英語弁論大会に出場しました。私は、〝Mother Teresa〟―「マザー・テレサ」を題材に選びました。マザー・テレサという名前は、耳にしたことがあるなあという程度でしたが、どんな人物か興味を持ったからです。

マザー・テレサは、「平和を促進させるために、私たちに何ができますか?」という受賞時の質問に、冒頭のとおり答えました。

「家に帰って、家族を愛してあげてください。」と。私は、マザー・テレサの平和についての考え方にある疑問を感じました。なぜ、家族を愛することが平和につながるのだろうかということです。

そこで、私は、自分の家庭を振り返ってみました。私は、家族といつも気楽に話ができます。父や母は、私のことを温かく見守ってくれます。家族のなかの誰かが落ち込んでいるときは、ほかの誰かが自然と微笑みかけて、自然と笑顔になれます。

ここで、私はあることに気がつきました。マザー・テレサはこのように言っています。

「笑ってあげなさい。笑いたくなくても笑うのです。笑顔が私たちに必要なのです。」

落ち込んでいるときや嫌なことがあったとき、それを顔に出していると、自分の気持ちの切り替えができないばかりでなく、周りの人も嫌な思いをしてしまいます。しかし、笑顔をつくると、それまでの負の感情はすうっと消えていき、気持ちが晴れやかになります。そして、再び前に向かって歩き出せるようになります。私の家庭では、このことが自然にできていたのです。私は、自分がマザー・テレサの言葉を実践できているように思え、うれしくなりました。

また、私が通っている中学校では、生徒会活動の一環として、ボランティア活動に力を入れています。いくつかの取り組みがある中で、最も力を入れているのが、募金活動と資源回収を行い、集まったお金で車いすなどを購入し、地域の老人ホームに寄付する「まごころ週間」です。今年は、通常の募金のほかに、ユニセフと西日本豪雨被害の支援のための募金活動を行いました。特別に実施した二度のまごころ週間では、通常よりも多くの金額が集まりました。私は、この結果に、「たくさん集まったのだから、多くの人の役に立てる。」と満足していました。しかし、マザー・テレサが残した次の言葉を知り、はっとしました。

「大切なのは、どれだけたくさんのことをしたかではなく、どれだけ心をこめたかです。」

私は、この言葉を知り、自分が恥ずかしくなりました。私は、まごころ週間を開催している立場であるにもかかわらず、本当の真心ではなく結果にばかり目を向けてしまったからです。しかも、「自分が災害の支援募金を提案したのだ。」と誇らしい気持ちを持っていました。私は、マザー・テレサの言葉から、純粋に心をこめるのが大切だ、ということを学び、それによって、真のボランティア活動の意義を理解することができました。

マザー・テレサの言葉は、私に多くの教訓や喜びを与えてくれました。一見、日常生活に直接結びつきのないように思える言葉でも、私の心の奥にしみこんで潤いを与え、大事なことに気づかせてくれます。これから先ずっと、マザー・テレサの言葉は、迷ったときや苦しいときに、私の背中を力強く押し、私の心を優しく包みこんでくれることでしょう。そして、マザー・テレサの愛に満ちた言葉は、必ずや時空を超えて、人の心を動かし続けることでしょう。個々の平和、そして世界の平和が実現することを祈り、私は伝えます。

〝You make your family a home of love, of peace of joy.〟

「家庭を愛の家、平和と喜びの家とされますように。」